

— 原著 —

新潟中央病院歯科口腔外科における 80 歳以上の高齢患者に対する臨床統計的検討

上松晃也^{1,2)}, 鶴巻 浩¹⁾¹⁾ 社会医療法人 仁愛会 新潟中央病院 歯科口腔外科 (主任: 鶴巻 浩 科長)²⁾ 新潟大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面口腔外科学分野 (主任: 高木 律男 教授)A Clinico-statistical Study of Over 80-year-old Patients at the Department of
Dentistry and Oral Surgery, Niigata Central HospitalKohya Uematsu^{1, 2)}, Hiroshi Tsurumaki¹⁾¹⁾ Department of Dentistry and Oral Surgery, Niigata Central Hospital (Chief: Hiroshi Tsurumaki)²⁾ Division of Oral and Maxillofacial Surgery, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences (Chief: Prof. Ritsuo Takagi)

平成 28 年 4 月 7 日受付 平成 28 年 5 月 21 日受理

キーワード: 高齢患者, 病院歯科, 基礎疾患, 観血的処置, 抜歯

Keywords: Elderly patient, Hospital dentistry, Underlying disease, Surgical treatment, Tooth extraction

Abstract

We analyzed the actual oral condition of over 80-year-old patients who visited the department of dentistry and oral surgery, Niigata Central Hospital, for 5 years from July 2009. This study was conducted to explore the potential of the dental department of the hospital for treating elderly patient.

1) In total, 434 patients aged over 80 years were analyzed. The number had doubled compared to a similar investigation conducted in 2001.

2) In total, 366 patients (84.3%) had some underlying disease, of which, 84 (19.3%) were administered antithrombotic drugs, and 30 (6.9%), bisphosphonate drugs.

3) Regarding disease classification, ill-fitting dentures and missing teeth were the most frequent (202 patients, 46.5%). Dental diseases were the second most frequent (90 patients, 20.9%), followed by periodontal diseases (80 patients, 18.7%).

4) Regarding the treatment category, denture treatment were the most common (274 patients, 63.1%), followed by surgery (232 patients, 53.4%).

5) There were no complications such as dental shock and exacerbation of underlying diseases during the treatments.

This study would make possible the regular dental treatment of many elderly patients by helping understand the general conditions of patients before treatment, and by taking advantage of the dental department of the hospital. These results suggest the roles and capabilities that the dental department of the hospital should assume in the future.

抄録

今回われわれは医科と開業歯科医院との接点ともいえる病院歯科口腔外科という立場から高齢者歯科治療に対してどのような働きができるかを模索するべく、2009年6月からの5年間に初診した80歳以上の患者を対象に調査を行った。

80歳以上の新患者数は434名で、前回調査と比較して倍増していた。何らかの基礎疾患を有する患者は366名(84.3%)にも上り、抗血栓薬内服者は84名(19.3%)、ビスフォスフォネート製剤内服者は30名(6.9%)であった。歯科疾患

分類では、義歯不適合および喪失歯が202名(46.5%)と最も多く、以下、歯の疾患が90名(20.9%)、歯周組織疾患が80名(18.7%)と続いた。処置内容(のべ数)は義歯関連が274名(63.1%)と最も多く、次に外科関連が232名(53.4%)となっていた。処置中に基礎疾患の増悪や疼痛性ショックなどの偶発症は見られなかった。術前に患者の全身状態の十分な把握に努め、体制のととのった病院歯科の環境を活用することで、本調査では多くの高齢者に対して一般の健康な成人と同程度の歯科治療を提供することができていた。この結果はこれからの病院歯科の担う役割・可能性を示すものでもありと考えている。

【緒 言】

本邦の平均寿命は男女ともに世界最高水準にあり、平成25年度の厚生労働省の調査では男性80.2歳、女性86.6歳とされている¹⁾。さらに、平成23年度歯科疾患実態調査では8020達成率も38%に達したとの報告がなされた²⁾。これらを加味すると、高齢者の残存歯数の増加傾向は今後も続くものと推察される³⁾。また近年、経口摂取の重要性や咀嚼が脳の機能を活性化させることなども広く認知されるようになってきており、高齢者に対する歯科治療の需要はさらに増加の一途をたどることが予想される。しかしながら、これまで高齢者に提供されている歯科治療に関しての詳細な実態報告は少なく、各医療施設において手探りの中で治療を進めている現状が伺える。その一例として、高齢者では観血的処置の適応となるケースが多くみられるにも関わらず、有病率自体も高いため⁴⁻⁷⁾、実施の可否に苦慮することがしばしば経験される。

今回われわれは医科と開業歯科医院との接点ともいえる病院歯科口腔外科という立場から高齢者歯科治療に対してどのような働きができるかを模索するべく当科の現状を調査し、さらに過去の調査結果⁸⁾との比較検討も併せて行い、若干の知見を得たのでこれを報告する。

【対象および方法】

本調査では、2009年6月から2014年5月までの5年間に新潟中央病院歯科口腔外科を初診した80歳以上の患者434名を対象とした。調査方法はカルテを基にした後ろ向き調査とし、調査項目は年齢、性別、受診経路、基礎疾患、歯科疾患分類、処置内容とした。さらに観血的処置実施者に関して詳細な処置内容および経過を調査した。複数の歯科疾患を有する症例では、主訴に対する歯科疾患の診断を用いており、口腔ケアの依頼のみの症例は含めていない。また、1996年7月から2001年12月の5年6か月間の当科における同様の調査報告(以下、前回調査)との比較検討も行った。

当院は整形外科を中心とした急性期病院であり、歯科口腔外科は常勤歯科医師2名、常勤歯科衛生士3名で構成されている。入院患者の口腔内トラブルに対しては迅速に対応できるよう対診依頼書なしでも適宜受診できる

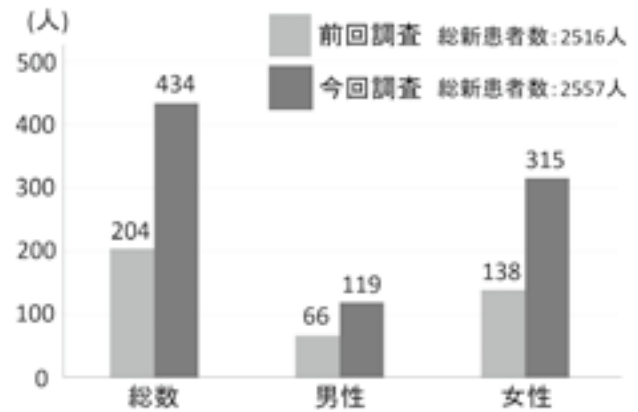


図1：患者数内訳（性別）

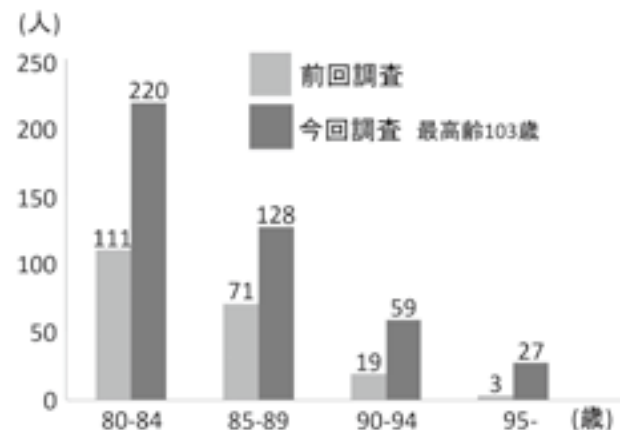


図2：患者数内訳（年齢別）

システムをとっている。

【結 果】

1. 性別・年齢別患者数

調査期間中の総初診患者数は2557人で、うち調査対象の80歳以上の初診患者は男性119名、女性315名の計434名(16.9%)、男女比は約2:5であった(図1)。年齢階級別では80歳-84歳が220名と最も多く、最高齢は103歳であった(図2)。前回調査と比較すると、80歳以上の初診患者数は2倍以上に増加し、その中でも90歳以上の超高齢者の割合が特に増加していた(図1, 2)。

2. 受診経路

対象患者の受診経路は、当院他科に入院中で歯科受診